

プロ・バレーボールのヴォレアス北海道と包括連携

旭川を本拠地として誕生した北海道のプロ・バレーボールクラブ、ヴォレアス北海道（池田和広理事長）と東川町がスポーツを通じた包括連携協定を結びました。10月12日、文化芸術交流センターで同協定書の締結を行い、バレーボールスポーツで相互連携を強めることになりました。



池田理事長と松岡町長が握手する様子。右から2人目がエド・クライン監督、右端は陳建禎選手

出店します。町の求めに応じてバレーボール普及のためスポーツ教室を開く予定です。松岡町長は「心を一つにして日本一を目指すチームを応援したい。たった一つのバレーボールの試合で人生が変わることもある」と連携効果に期待を表しました。

池田GMは「来年1月20日、21日は東川小学校の体育館で試合を予定しており、東川らしさをPRできる大会にしたい」と話しました。プロスポーツチームと東川町との間の連携協定締結は初めて。

松岡市郎町長、同クラブの池田理事長、池田憲士郎GM、2日前から町立日本語学校で日本語を学び始めているクロアチア人のエド・クライン監督（37）、台湾から来日入団した陳建禎選手（28）らが出席しました。東川町はクライン監督と陳選手の本語習得に全面協力し、必要に応じて陳選手のために日本語学校の留学生を通訳として派遣します。大雪旭岳源水のボトル商品を試合があることに必要本数無償提供し、オリジナルスクイズボトルを作成します。

ヴォアレスチームは、ユニフォームに東川町のロゴを表記して町のPRに努め、同チーム主催イベント、ホームゲームでは東川町のPRブースを無償

体験農園「田んぼの学校」で稲刈り

10月10日、ゆめ公園体験農園（約1・2畝）の東川小学校・田んぼの学校、東川中学校・学校田で、児童、生徒が稲刈りをしました。直播田を除いて町内では最も遅い稲刈りとなりました。東川小の5年生児童60人はうるち米「きたくりん」ともち米の「はくちようもち」、東川中の生徒81人はもち米の「はくちようもち」を刈り取りました。うららかな小春日の好天に恵まれました。田んぼの学校で稲刈りした5年生は、初めての稲刈り体験、かまを手



に昔ながらの手刈りに続いて、コンバインに乗って機械刈りも体験しました。ハンドル、アクセルスロットルに手を添えて自ら運転する感覚の体験も「ガタガタ揺れるところが気持ちいい」「上から見ていると、景色がどんどん変わっていくのがおもしろい」とみんな大興奮。

この日の収穫は、「きたくりん」が前年よりかなり減収して約66俵（約4千kg）、「はくちようもち」は前年並みの約14俵（840kg）。11月になったら町内4小、中学校で収穫した新米の給食が始まる予定です。

「お米がおいしいね」この秋、新米キャンペーンで収穫と飲声

10月5日から4日間、今年の新米を特別予約販売する2017東川米新米キャンペーンが行われました。町内の道の駅・ひがしかわ道草館、ホクレンショップひがしかわ店、キトウシ森林公園物産センターの予約引き換え場所には、町内予約者が初日、2日目の引き換えに集中。週末は町外からの引き換え客が来場しました。7日、旭川市内から申し込んで道草館に購入受け取りに来たという会社員（59）は、「孫一家と合わせて3世帯分なんです」と5kg袋を25袋を買い入れ、車の後部座席がいっぱい。



鈴なりの芋がどんと土の中から出てきて、顔の大きさほどもあるでっかい芋も。落花生40株の収穫も体験して、みんな両手を真っ黒にして大歓声。収穫量は、さつま芋230kg、落花生15kgの大豊作になりました。

ワインぶどうの収穫、今年は不良

10月15日、町営ぶどう園（西2号北18番地）で今年度のワイン仕込み用のぶどう収穫を行いました。



町のぶどう園は、7線ほ場（西2号北44番地）と2カ所で東川振興公社が栽培管理を受託し、ひがしかわワインの原料用セイベル種を栽培、製造、販売しています。今年は昨秋の早い降雪で雪害の被害が大きく、公社職員の摘み取りもわずか246kgと、不良年だった昨年の5分の1という極端な収穫不良に終わりました。

7線ぶどう園の収穫量も少なく、今年は約1・7割の不良。来年のワインは、本数にして千700本分程度の製造にとどまりそうです。

昨秋の早い降雪で、今春発芽するはずの新芽が大きくダメージを受け、さらに今年6月の天候不順と低温で生育が極端に悪かったようです。加えて収穫期直前にカラス被害にも遭い、収穫減に追い打ちをかけたよう。近年、ぶどう摘み取りは、体験参加の希望者を

好評、新米キャンペーンで前年より約2割増

10月5日から4日間、今年の新米を特別予約販売する2017東川米新米キャンペーンが行われました。



「お米がおいしいね。このキャンペーンで買うと安いしね」と毎年楽しみにしているそうです。今年の予約申し込み数は千370件5千304袋（1袋5kg入り、前年比230件978袋増）となりました。2年目のインターネット予約は280件（同133件増）。予約期間が1週間長かったため前年より230件、20・1%増となりました。「ななつぼし」セットが加わったことも増加の要因になったようです。今年是全国各地から受けた全国発送が多数でした。

募っていました。今年度は体験募集も中止となっていました。来年度の挿し木用の苗木栽培も昨秋の雪害でほぼ全滅してしまっただけで、生産回復には時間がかかりそうです。試験栽培4年目のピノ・ノアール、トラミーナ、バツカス、シャルドネ、シルバーナの5品種はともによ

うやく実が付き始め、ピノ・ノアール約15kg、シャルドネ約13kg、バツカス約300kg、シルバーナとトラミーナ各約2kgを収穫しました。

秋の交通安全運動で祈願祭

9月25日、東川町交通安全協会（米田保会長）は交通安全観音像広場（北町1）で秋の交通安全祈願祭を行いました。

同月30日まで10日間実施した秋の交通安全運動に呼応して開きました。町内の事業所、行政区、各小、中学校長、交通安全指導員ら約80人が出席しまし

た。

松岡市郎町長は「交通安全は人災。家庭から、地域から、職場から、学校から全町挙げて交通安全ルールを守ることが大切」とあいさつしました。



稲津隆明旭川東警察署

第一交通課長は「子供と高齢者、夕暮れ時と夜間、すべての席でシートベルト着用、飲酒運転の撲滅が重点目標。9月26日現在で、東川町では死亡交通事故数はゼロを更新しています」と一層の交通安全意識の徹底を呼びかけ、出席者それぞれ交通安全事故ゼロ、飲酒運転の撲滅を祈願しました。